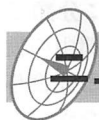


# MEDICAMENT NEWS

第2182号 2015年1月5日 月曜日

発行所  
株式会社 ライフ・サイエンス  
発行人/石澤 弘平  
〒150-0001  
東京都渋谷区神宮前5-53-67コスモス青山  
Medicament News 編集部  
(電話)03-3407-8952(直通)  
03-3407-8963(代表)  
ISSN 1347-3204  
購読料/1カ年 10,800円+税  
(毎月3回5・15・25日発行)



## ニュースレーダー

はがき大に薬剤の重要情報を凝縮  
「アラートカード」を作成・活用

—山口大附属病院・古川氏—



山口大学医学部  
附属病院薬剤部の  
古川裕之部長写真  
真一は先月9日、  
東京都内で開催さ  
れた記者セミナー  
(中外製薬(株)主催)  
に登壇し、「常に

更新される医薬品安全性情報の確認」  
、「新たな副作用シグナルの収集」  
、「法律・社会状況の変化に関する患者への  
説明・指導義務」など、薬剤師(病院薬  
剤部)に求められる役割と、同院で実  
際に実施してきた様々な創意工夫につ  
いて、講演を行った。

### ◎危険情報まとめた「アラートカード」

医薬品の安全性に関する情報は日々  
更新され、安全性速報(ブルーレーター)  
など様々な情報が発信されている。し  
かしその数はあまりに多く、古川氏は  
「本当に重要な情報が現場に伝わりに

くいのではないか」と危惧する。

とはいえ、プロである以上「知らな  
かった」では通じない。そこで古川氏  
は、状況解決の手段として「アラート  
カード」を提案した。添付文書のうち  
「警告」で示されている健康被害に直結  
する注意事項と具体的情報を、はがき  
サイズの紙1枚にまとめたものだ。

このアラートカードは、まずは中外  
製薬の抗がん剤「リツキサン」に採用さ  
れ、その出来栄えを見た他社でも採用  
された。古川氏は「成功例がひとつあ  
るとワッと広がりやすい」という。

◎患者観察と記録で副作用を早期発見  
さらに古川氏は、薬剤師に求められ  
る仕事として「副作用シグナルへの気  
づき」を挙げた。

従来、副作用の確認といえは、添付  
文書に記載されている事象にのみ注意  
を払っていた。いわば、既知の情報に  
ばかり注目していたといえる。

これに対して古川氏は、いま患者に  
起きている小さな変化に気づくことも  
大切なのだと指摘。「何もないのも重  
要。何もないなら何もなかったと記録  
するよう指導している(山口氏)」。

副作用の早期発見は、被害拡大を防  
ぐだけでなく、「新しい薬のタネ」が生  
まれるきっかけになることもある。古  
川氏は「全ては適切な患者観察から始

まる」と述べ、時間があつたら患者を  
見に行くよう指導しているという。

### ◎運転など患者指導用の資材も作成

医薬品の中には、服用中の自動車の  
運転や高所での作業が禁止されている  
製品もある。こうした情報を患者に適  
切に伝えるのも、薬剤師の仕事だ。

製薬企業も、薬剤ごとに説明資材を  
制作している。しかし古川氏は「サイ  
ズもバラバラで、内容もあまり実用的  
とはいえない」と苦言を呈する。

そこで、山口大学医学部附属病院で  
は、特に添付文書で「警告」の記載があ  
る薬については、専門用紙を制作し  
て、患者に説明することにした。これ  
もまた、はがきサイズ1枚の紙で、注  
意事項がまとめてある。イラスト入り  
でわかりやすく、使いやすい。

時代と共に、薬剤師に求められる仕  
事の内容も変わってくる。山口氏は今  
後も「重大な副作用の早期検出」  
、「患者への説明・指導義務」などの課題に  
取り組んでいきたいと展望を述べた。